

指導課短信

1 個に応じた授業の工夫

平成22年5月に提出された教育課程の数学に関する調査結果がまとまりました。個に応じた指導として、2クラス3講座展開や1クラス2講座展開、選択授業など、少人数の授業展開を実施する学校が年々増えております。公立高等学校136校中121校で取り入れられており、89.0%の実施率でした。特に、習熟度別少人数を導入している公立高等学校は41校ありました。

また、学校設定科目を導入し(50校で実施中)、生徒の実態に則した取組が定着するとともに、ティームティーチング、グループ学習、個別指導などの様々な授業工夫が行われ、「個に応じたきめ細かな指導」の充実が図られています。

特に、新学習指導要領の目指す「基礎・基本の定着」、「言語活動の充実」を図るために、生徒の発表・話し合い、小テストの活用、情報機器の活用などが、多くの学校で実践されていることがわかります。

2 千葉県高等学校

教育課程研究協議会

7月28日(水)、千葉女子高等学校において、千葉県高等学校教育課程研究協議会が、新しい学習指導要領等に係る説明・協議を行い高

等学校の数学教育の改善・充実を図ることを目的として、開催されました。

講師として、川島剛校長先生をはじめ、吉田圭介校長先生、今関文章教頭先生、千葉和也先生、小林中先生をお迎えし、以下のような内容で行われました。

説明 I 「千葉県県立高等学校の教育課程
編成方針について」
「教育課程状況について」
教育庁指導課 風戸 正

説明 II 「高等学校学習指導要領の
改訂について」
野田中央高等学校 小林 中 先生

説明 III 「数学的活動について」
松戸南高等学校 千葉 和也 先生

発表 I 「到達度評価の活用についての
授業実践」
泉高等学校 朽津 賢治 先生

発表 II 「学習内容の定着を高める指導の工夫」
柏中央高等学校 篠崎 健太郎 先生

発表 III 「生徒の学ぶ意欲を高める
指導の試み」
市原八幡高等学校 高橋 宏 先生

最初に、風戸指導主事から、新学習指導要領の規定に沿った県の編成方針の枠組みが説明されました。次に各学科に共通する必履修教科・科目の単位数、総合的な学習の時間の単位数や、義務教育段階の学習内容の確実な定着を図るための手立てについて具体的な話がされました。

また、新学習指導要領の数学及び理数に関して、改訂のポイントが簡潔に説明されました。

最後に、教育課程に係る調査結果について、履修状況や設定科目の説明がありました。

続いて、小林先生からは、数学の改訂について、高等学校学習指導要領解説を中心に科目の履修順序や、他教科との関連、現行課程との相違点について詳しく説明がありました。また、「課題学習」、「数学における道德教育」、「学校設定科目の設定」など各学校が編成に当たってとても参考となる説明を、資料をもとにされました。

千葉先生からは、改訂の大きな柱である「言語活動」の重要性について、中教審答申から学習指導要領告示までの流れを追って説明されました。その後、「数学的活動」について、中学校での内容に触れながら配慮事項や具体的な題材・例について説明されました。具体的な問題例が提示されたときには、参加者も頭を悩ませる場面もありました。

続いて、朽津先生からは、到達度評価の活用について報告がありました。学習習慣が身に付いていない生徒に、「到達目標プリント」「授業プリント」「評価プリント」「宿題プリント」「再評価プリント」という5段階のプリントを用意し、生徒の実態を把握しながらきめ細かく指導した報告がされました。特に、宿題へ活用させることにより、基礎・基本の定着や生徒の学習意欲を高める上で一定の効果があつたとのことでした。

続いて、篠崎先生からは、「すぐに公式を忘れてしまう」、「覚えられない」という生徒の声に対して、「脳と記憶」をテーマとした大変興味深い研究報告がされました。記憶と忘却のメカニズムから小テストの実施タイミングや回数について考察した報告、「語呂合わせ」による公式暗記、脳を活性化する授業実践について、会場全体が引きこまれるほどの興味ある報告がされました。

続いて、高橋先生からは、生徒によるグループ学習の授業展開の報告がありました。言語活動の充実のためにも、個による学習の後、グ

ループで検討し、皆でよりよい解答を作成し発表するという取組でした。普段は受身的な場面が多いだけに、グループ内で互いに教え合うことにより理解を高められたという報告がありました。

関係の先生方の御協力に感謝申し上げます。

3 平成 22 年度公立高等学校入学者選抜学力検査における数学の結果

全体の平均点は、45.7 点で、前年度と比べて 1.0 点低くなりました。内容別の正答率は、「数と式の計算」が 69.8%で最も高く、次に「確率」が 54.0%でした。以下、「命題の証明」、「平面図形」、「関数」、「空間図形」、「三平方の定理」の順に正答率が低くなっていました。無答率については、「数量関係」領域の「一次関数」大問 5(3) 2 点間の距離とグラフが 66.5%で最も高い結果となりました。次に高かったのが「命題の証明」大問 4(1) の証明の記述で 62.4%でした。

4 教科研究員 (平成 22・23 年度)

平成 22・23 年度の数学科教科研究員を次の方々をお願いいたしました。教科研究員の先生方には、該当の 2 年間、数学科における指導の内容や方法について実践的かつ具体的な研究を行い、その成果を報告書としてまとめていただくこととなります。

井原 礼司	(千葉商業高等学校)
峰岡 洋平	(幕張総合高等学校)
佐藤 彰弘	(土気高等学校)
天野 優子	(実籾高等学校)
宮部 智哉	(佐原高等学校)